



がっこうだより

枚方市長尾西町 2 丁目 45 番 1 号 TEL050-7102-9176
E-mail nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp
URL https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/6-1-0-0-0_2.html

枚方市立西長尾小学校 令和 5 年 1 2 月 2 2 日

<西長尾小学校のめざす児童像>

1. 心豊かな子ども（自他を大切に
する、思いやりのある子ども）
2. 深く考える子ども（自ら学び、
考えて行動できる子ども）
3. 健康な子ども

自分の良さに気づかせてくれるのは、まわりの人々

—— 一人ひとりが大きく成長できました

2学期はたくさんの行事がありました。そこには、まわりの人たちと様々な関わりをもち努力するみなさんがいました。また、みなさんが一歩成長する姿を、数多く見る事ができました。

今日は、「あゆみ」が返却されますが、そこには、みなさんの努力

の姿に、どんな成長があったのかが記録されています。がんばったことに自信を持って、3学期には、どんな自分になりたいかを決め、自分で目標を立てて、努力してください。

さて、12月11日に演劇を生かしたコミュニケーション授業を全学年で行いました。これは来年1月10日に行う公開研究授業のための準備の取り組みです。

さて、学期ごとに行っている演劇を生かしたコミュニケーション授業のねらいの最も大切なところは、みなさん一人ひとりが、これからどんな力をつけることが必要とされているのかということをも身をもって感じる事です。

みなさんが主体的にコミュニケーション授業に取り組み、劇を作っているときに、先生方は一人ひとりの姿を観察し、どんな力が出せているかを見取ります。そして、できるだけその発揮できているときにその人をほめるように努力していきます。

みなさんが、「他人を思いやる力」や「我慢をする力」、「意見が違っていても、相手に『あなたの考えはわかるよ』という姿勢でいるか」ということや、「相手の立場になって、自分の思いを伝えるための工夫」、「最後まで協力しあって成し遂げようとする事」、「ねばり強さ」など、いわゆるテストで測れない力を見取ってほめるのです。

その「一人一人の振舞いの素晴らしさ(人としてのねうちの高さ)に気づいてもらうための声かけ」のことを「価値づける」といいます。実は演劇を生かした授業で最も大切な



ことは、このような自分のより良い振舞いの価値に気づいてもらうことです。

みなさん一人一人が自分が身に付けなければならないものや身に付いてきたものに気づくことや、自分がよい方向へ成長していることに気づいていくことは、生きていくうえで大切にしなければならないことを知ることに繋がります。さらにそれは、どのような姿勢で生きていくことが自分を幸せにするのかを考え、身に付けることになるのです。

生きる目的は、自分も他の人も、ともに幸福になることです。

演劇を生かしたコミュニケーション授業の中で学ぶのは、生きるために必要な、柱となる力です。その力とは、3つに分けると「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他の人と協働するための力」となります。

それぞれの力を発揮することのできる場面で一つ一つ積み上げていってください。状況に合わせて、自分が自然にそんな力を出せるようになるのが目標です。

最初は「まね」でもいいです。まねでもいいから思いやりの行動をしていけば、それを受けた人から、例えば「ありがとう」という言葉が返ってきます。「感謝」という素晴らしいお返しが帰ってくるのです。

そのとき、自分の心に「ここちよさ」が積まれていきます。そのうちにその価値の高さがわかってきます。形から入っても結構です。とにかく人としての振舞いの中で、価値の高いものは一体なんだろうということを考えながら努力すると良いと思います。

また、他の人と協力しあって、物事を成し遂げる体験も大切です。自分が主体的に知恵を出して、誰かから言われるのでもなく、自分たちから進んで協力し合い、一歩も二歩も広い視野に立ち、人のために灯りを燈(とも)すような行動ができれば素晴らしいですね。

国が、学校で行う教育内容を示した「学習指導要領」には、未来の世の中には、このような、考え方の違う人とも協働して問題に向き合い、柔軟に取り組んで乗り越えていく力を持った人材が必要だと示されています。

個性や創造性を大切にして、のびのびとがんばって欲しいです。そのためには、先人に学びましょう。偉人と呼ばれる人、良い生き方をした人に関する伝記を読んだり、社会に良い影響を与えた人がどんなふうに努力をしたのかを調べたりする

と自分の生活に生かせるヒントやエネルギーがたくさん得られると思います。

冬休みも、本をじっくり読み、いろいろな人と生き方について話し合ってみましょう。

おすすめの本

やまもとゆうぞう ろ ぼう

山本有三「路傍の石」(偕成社文庫)

明治時代。夢を追いつける少年 吾一の労苦と成長の物語。

負けずぎらいな主人公の吾一がどのような心の成長を遂げるかが描かれています。読む人をその時代の社会の中にいざないます。

読者が共にその時代を生きる友人として、伴走しているように感じる、生き生きとした空気にあふれています。



読書ノート運動

小学生に読書に親んでもらおうと、大阪読書推進会と朝日新聞大阪本社が進める「読書ノート運動」。

本校も今年度の活動に参加しています。その前期の結果(4~9月)がまとまりました。

5、6年生は50冊読むと、氏名が新聞と「朝日新聞デジタル」(<https://www.asahi.com/area/osaka/dokusyonoteundo/>)に掲載され、100冊読んだ1~4年生は朝日新聞デジタルに氏名が掲載されています。

本校で達成した人も掲載されています(掲載許可を頂いた方のみ)。

12月4日 3年生

きれいな音色に惹かれて教室に向かうと、3年生から始めたリコーダーもすっかり慣れたような姿がそこにありました。



12月1日 6年生 ころの劇場

オリックス劇場にて劇団四季の「ジョン万次郎の夢」を鑑賞しました。始まる直前のわくわくした様子です。

嵐に巻き込まれて遭難してしまった万次郎たちがアメリカの捕鯨船の船乗りたちと出会った場面がとても印象的でした。言葉は通じないけれども、勇気を出してつながろうとする万次郎の姿が子どもたちにとっても響いたようです。



日々の学校の様子は「枚方市立西長尾小学校ブログ」をごらんください。

12月7日 2年生

6年生の作品を観た感想を書いています。



下のQRコードでアクセスできます。



「枚方の教育において大切にしたい5つの視点(5C)」との親和性が高い、演劇を生かしたコミュニケーション授業

演劇を生かしたコミュニケーション授業は、創造性(クリエイティビティ)、協働するための力(コミュニケーション・コラボレーション)、伝わる表現を検討判断する力(クリティカルシンキング)、そして、完成させて発表するまでのねばり強さ(チャレンジ)といった、これからの教育における大切にしたい非認知能力(いわゆる「枚方の教育において大切にしたい5つの視点(5C)」)を網羅しています。

12月11日 1年生

演劇を生かしたコミュニケーション授業

本日は5限目に全学年で一学級ずつ、演劇を生かしたコミュニケーション授業を行いました。1年生は、「なにをやっているんでしょう、あてっこゲーム」を行いました。グループで話し合い、お題にそった動きを役割を決めて演じます。観客としてそれを見ている人は、それが何を表そうとしているのかを見取り、あてっこします。



12月11日 5年生 演劇を生かしたコミュニケーション授業(グループ創作)

グループ創作に取り組みました。ひな形のある台本を役を決めて検討し、自分たちで面白い作品につくりあげます。折り合いをつける力を育みます。



12月6日 4年生

算数

仮分数を帯分数にする...お隣と活発に自分の考えを交換しています。授業の中に話し合いの場があるのが当たり前という感覚です。

自主学习ノート

掲示されている自主学习ノートの良いところを見えています。一人ひとりの工夫を褒めています。

